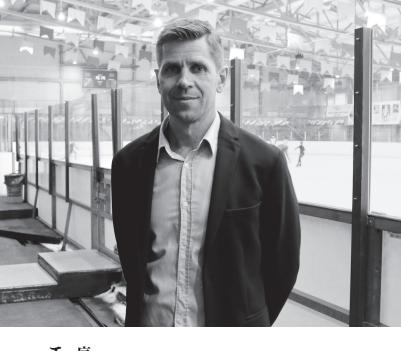


都築章一郎 (つづき・しょういちろう)

1938年愛知県生まれ。日本大学卒業。卒業後は指導者となり、1964年日本フィギュアスケーティングインストラクター協会に参画。 佐野稔をはじめ多数の選手を育成した。また、ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連。当時)より有カコーチを招聘し、日本フィギュア界の発展に貢献。1987年より14年間、日本フィギュアスケーティングインストラクター協会理事長を務め、指導者資格認定制度を確立。1991年より4年間、日本オリンピック委員会(JOC)主任強化コーチ。オリンピック二連覇の羽生結弦を小学2年より高校生時代にかけて指導。

第三章	第二章	第一章	序章
都築章一郎はふたたび語る ――――― フ	アレクセイ・ミーシンは語る 51	都築章一郎は語る ――――― 25	エドゥアルド・アクショーノフは語る

都築章一	終章	第六章	第五章	第四章
郎 主な教え子たち	都築章一郎は三たび語る	タチアナ・タラソワは語る	都築奈加子は語る ―――――――― 123	ヴィクトル・ルイシキンは語る
	161	141		95



エドゥアルド・アクショーノフは語る序章

車は、 モスクワの中心地から南へ向かって走っている。レーニンスキー大通りに入り、

ガガーリン広場までまっすぐ走る。

「レーニンスキー」は、古い道路だ。建設が始まったのは一八世紀で、一九四○年代まで

続いた。今の名前になったのは一九五七年である。

道路沿いには、ロシアを代表するいくつかの建物、建造物が建っている。巨大なガガー

包括している。前身は一七二四年設立のサンクトペテルブルグ帝国科学芸術アカデミー)もそうだ。 リン像がそうだし、ロシア科学アカデミー(ロシア最高学術機関。連邦全土の学術研究機関を

車は軽快に走り続ける。 運転手は出発するとき、

∵がなければ、四○分くらいで着くと思う」

と言っていた。言葉通り、四五分で目的地に到着する。

国営スポーツ教育センター「サンボ70」。ロシア全土で、最大の総合スポーツ教育施設

だ。ロシア全土七○以上の都市に「地方支部」を持っている。

万六○○○人を超える選手たちが練習に励んでいる。スケートリンクは、二つある。 建立は一九七〇年で、敷地面積は一万二〇〇〇平方メートル。現在二六種類 の種目の一



モスクワから車で40分ほどの郊外にあるスケートリンク「フルスタリヌイ」。取材当日はオフシーズンだったため、生徒は少なかった。地下にはトレーニング施設が完備されている。

クサイズは「三○メートル×六○メートル」で、国際規格を満たしている。

むろん、他にも、 いろいろ揃っている。前後が鏡張りになったバレエ室や柔軟体操など

また、それぞれの部屋には、最高の指導者がいる。

を行う部屋、かなり広いトレーニングジムもある。

ジムには、ありとあらゆるマシンが揃っている。スケーターだけでなく、ボディビルダ

ーだって、筋力トレーニングができるだろう。

そこは黒を基調としていて、マシンの冷たさと相まって硬質だ。

やバランスボールやロープや、ウエイトとして。 その中に、赤や紫、黄、白、深緑、黄緑、青、金色がささやかに混じっている。マット

リンクそばの小ぶりな部屋には、医師も常駐している。文句のつけようがない。万全の

サポート体制がここには、ある。

実際、サンボ70はタレントの宝庫だ。選りすぐりの選手ばかりが、いる。

手権のメダリストを輩出し続けている。 フィギュアスケート女子シングルの聖地と呼んでもいいだろう。オリンピックや世界選

近年で言えば、二〇一八年韓国、 平 昌オリンピック女子シングル金メダリスト、 アリ

ーナ・ザギトワ(二〇〇二年生まれ)、銀メダリスト、エフゲニア・メドベージェワ(一九

四回転ジャンプを数種類跳ぶことのできる、最強の若手選手もいる。

九九年生まれ)がいる。

二〇一八年、二〇一九年世界ジュニア選手権女子シングル金メダリスト、 アレクサンド

ラ・トルソワ(二○○四年生まれ)や、アンナ・シェルバコワ(二○○四年生まれ)らがそう

である。

彼女たちは、

習得していく。

とくに、トルソワとシェルバコワは、 四回転ルッツから連続ジャンプを跳ぶ。息を吞む。

る選手は一握りだ。

する人もいる。 くらい高難度の技だ。もっと言えば、四回転ルッツ自体が非常に難しい。男子でも、跳べ 大胆で、 冒険的な取り組みを「無鉄砲」と批判する人だって、いる。「危険だ」と心配 次々と四回転ジャンプに挑戦し、いともたやすく(傍目には、そう見える

序章 エドゥアルド・アクショーノフは語る

でも、試合でそれらの「意見」は、まったく意味をなさない。 実際に勝つのは、 彼女た

ちなのだ。

し続けるのか。

どうして、彼女たちは強く、しなやかで、美しいのか。なぜ、才能は引き継がれ、 開花

ド・アクショーノフ氏(一九七三年生まれ)に話を聞くことになっている。一五時の約束だ。 その理由が知りたくて、私はサンボ70へ来た。総務担当副部長(教頭)、エドゥアル

サンボ70の入り口にはセキュリティゲートが設けられている。あまり厳重なものではな

0 ガ 「われなかった。受付の女性も同じで、「アクショーノフ氏と約束がある」と話すと、 ードマンが、いるにはいる。でも、ちょうど外に出て行くところで、すれ違ったが何

は、スナック菓子や飲み物の自販機があり、右側には軽食が買える売店があった。 受付に続く広い空間には、いくつかのテーブルと椅子、ソファが置かれている。 左側に

すぐに通してくれた。

壁には、大きめのテレビが掛けられている。映っているのは、アメリカのアニメーショ

ン「トムとジェリー」で、見ているのは練習を終えた女の子たちだ。

皆、髪をお団子に結っている。小学校低学年くらいだろうか。もっと幼いかもしれない。

ときおり、「きゃきゃきゃ」と愛らしい声で、笑う。どこか長閑な光景だ。 保護者と一緒にお弁当を食べている少女のそばには、ガラス製の飾り棚が二台並んでい

る。

中段の真ん中に、アリーナ・ザギトワの人形が立っていた。 ガラスの棚には、 トロフィーが詰まっていた。誰が獲得したものかはわからない。

人形 は平昌のフリープログラム「ドン・キホーテ」の衣装を着ている。赤い豪華なチュ

の足元には、ふわふわの小さな「マサル」がいる。 チュだ。スケート靴を履き、首に金メダルを掛けて、赤い花束も持っている。そして、そ

か の手作りなのだろうか。 羊毛フェルトでできている。

マサルは日本から贈られた秋田犬(雌)で、ザギトワが「私の支え」と呼ぶ愛犬だ。

誰

エドゥアルド・アクショ

しばらくすると、アクショーノフが現れる。事前に「七分、遅れます」と連絡があった。 13

几帳 面な人だ。案内された部屋も、とてもきれいだった。整っている。

ていた。二○一三年にサンボ70として統合されるまでの約一○年間だ。当時、 彼はサンボ70の前身「第三七番青少年スポーツ学校」(二〇〇三年建立)で、 モスクワで 校長を務め

○一四年ソチオリンピック団体金メダリスト、ユリア・リプニツカヤ(女子シングル五位、 第三七番青少年スポーツ学校は、著しい成果を上げていて、高い評価も受けていた。二 いちばん若い「校長」だった。

九九八年生まれ)らがいた。当然、彼女を指導するエテリ・トゥトベリーゼコーチ(一九

七四年生まれ)もである。

チとしては、世界でいちばんだ。天才だと思う。 先に言っておくと、トゥトベリーゼは、とんでもなく優れている。女子シングルのコー

だから、この学校をサンボ70に統合することには反対の声もあった。

たとえば、世界的な重鎮であるタチアナ・タラソワコーチ(一九四七年生まれ)は、

通信のインタビューで、痛烈に批判している。日く、

「素晴らしいフィギュアスケート学校を作りあげ、素晴らしいコーチ陣を集めたアクショ

ツ学校が、なぜ『サンボ70の一部門』に格下げになるのか。 ノフ氏が、 なぜ『教頭』に格下げになるのか。結果を出している第三七番青少年スポ 理解不能だ」

とを、短く語った。 ツ種目を網羅した、非常に大きな組織であること。自分がそこで総務の担当をしているこ ただ、アクショーノフ自身は、この件には触れなかった。

サンボ70が二六種類のスポー

i